

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2773700469		
法人名	株式会社ライフサポートジャパン		
事業所名	ゆうとび庵摂津・千里丘		
所在地	大阪府摂津市千里丘東1-13-7		
自己評価作成日	令和7年2月5日	評価結果市町村受理日	令和7年4月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/28/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-25-224		
訪問調査日	令和7年2月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ゆうとび庵摂津・千里丘では地域との関わりを大切にしており自治会にも加入しています。自治会で行われる夏祭りや運動会などの地域行事への参加や、防災訓練などへの参加も行い地域の一員としての活動を積極的に行っています。他にも行政や地域包括支援センターとの共同による徘徊模擬訓練や大規模なイベントなどへも積極的に参加しています。施設内でも様々なレクリエーションを展開して、主に季節を感じていただける行事を企画し皆様楽しんで頂いています。また、建物の1階にクリニックがあり、細やかな医療のサポートを受けることができますので、安心して日々の生活を過ごして頂くことができます。入居者、家族、職員が一つになれるような関係作りを大切に、地域に開かれたアットホームなグループホームを目指し取り組んでいます。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

駅に近く、散歩・買い物・通院など生活に便利な住宅地にあり、開設21年目を迎え自治会や地域住民の協力が得られている。利用者が散歩や買い物、地域行事(夏祭り・スポーツジャンボリー・秋祭り・防災訓練・「摂津市介護の日」イベント等)への参加で地域交流し、認知症相談窓口やAEDの設置・市の認知症プロジェクトへの参加等で事業所として地域貢献にも取り組んでいる。各種会議・委員会・研修を定期的・計画的に行い、職員の資質向上と連携、利用者サービスの向上に取り組んでいる。職員の定着がよく、利用者・家族と馴染みの関係が築かれている。建物1階のクリニックによる往診・訪問看護・24時間連絡体制があり、医療依存度の高い利用者の受け入れと対応が可能であり、希望に応じて看取り介護への対応も行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

評価項目	評価項目	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業理念や基本方針を常に意識できるよう各フロアや事務所等に掲示し、その基本方針を基に目標を設定し理念の実践に取り組んでいます。	「より良い介護」「感動ある介護」を法人共通の理念としている。事業所の基本方針(8項目)に、地域密着型サービスの意義を明示している。理念・基本方針を玄関と各フロア(詰所・台所等)に掲示し、毎年年度初めに「運営理念・運営方針研修」を実施し、共有と理解を図っている。理念・基本方針をもとに事業所と各フロアの年間目標を作成し、フロア目標を毎月のフロア会議で確認し、年度末に評価し、理念・基本方針の実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事への積極的な参加を実施しています。買い物なども近隣の施設を利用し馴染みの関係が築けるよう取り組んでいます。	自治会に加入し、自治会便りによる地域行事等についての情報提供がある。自治会長の協力があり、近隣住民とも挨拶や言葉を交わしている。日常的に利用者が散歩や買い物で地域に出かける機会を設け、「摂津市介護の日」イベントへの作品出展を継続し、今年度は市長賞を受賞した。利用者も会場に出かけ、作品鑑賞している。地域行事(夏祭り・スポーツジャンボリー・秋祭り・防災訓練等)への、利用者の参加も再開している。認知症相談窓口やAEDを設置する、市の認知症プロジェクトに参加し、講演会活動や徘徊模擬訓練に参加する等、事業所として地域貢献にも取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症相談窓口やAED設置の案内を行い、地域へアピールしています。また、市の認知症プロジェクトに参加し、講演会活動や、市民と協力して行う徘徊模擬訓練の参加を実施しています。		

ゆうとぴ庵摂津・千里丘

評価 自己	評価 外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開催は概ね2カ月に1回実施しています。月々の活動を報告し意見、評価を頂きサービスの向上に活かしています。	利用者・家族代表・地域代表(自治会長)・市役所職員(高齢介護課)・知見者(クリニック看護師)を構成委員とし、令和6年度は、奇数月に集合開催で実施している。会議では、「ゆうとぴ庵通信」を配布し、利用者状況・行事・研修・感染症対策等について報告し、参加者と意見・情報交換を行っている。参加できなかった構成委員には、議事録を郵送し報告している。議事録ファイルを玄関に設置して公開している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には市の高齢介護課の方に参加して頂き、情報交換や助言を頂いています。また、事業所連絡会等を通じても連携を図り協力関係を築いています。	運営推進会議に市役所の高齢介護課から参加があり連携している。「事業所連絡会」主催の会議・研修会・交流会・「介護の日」イベントに参加し、「事業所連絡会」を通しての市との連携もある。市の認知症プロジェクトにも参加している。福祉的支援が必要な利用者を、市の支援課と協働して支援している。報告・相談・質問があれば市の担当窓口へ報告・問い合わせを行い、適正な運営につなげている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修は全職員が受講し周知徹底を図っています。玄関はオートロックで内側から開錠できます。利用者の外出意向があれば同行し、行動を制限しないよう努めています。	「身体拘束適正化のための指針」「身体拘束廃止マニュアル」を整備し、身体拘束をしないケアを実践している。「身体拘束適正化委員会」を、3ヶ月に1回を開催している。(令和6年度は6・9・12月に実施し、3月に実施予定している。)委員会に管理者・フロアリーダー・計画作成者が参加し、各フロアの状況報告と行動制限につながらない対応等について検討している。議事録を回覧し、回覧印により職員の周知を確認している。年間研修計画に沿って、「身体拘束廃止・虐待防止」研修を年に2回実施している。令和6年度は、6月は資料研修、2月は事例検討のレポート研修を実施している。フロアの入り口は施錠しているが、外出の希望があれば、玄関前スペースや近隣の散歩等で戸外に出て、閉塞感を感じないよう支援している。	

ゆうとぴ庵摂津・千里丘

評価 自己	評価 外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について定期的な研修を行い、職員の知識向上と意識づけに努めています。また、虐待を見過ごさない環境作りにも努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	活用の際にはスムーズな支援ができるよう内部研修、外部研修を通じて学ぶ機会を作っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約等の際は誤解のないよう十分な説明を行い、ご質問等にはお答えしながら、ご理解をいただけるよう努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置したり、運営推進会議の場や面会・お電話などでもお声掛けをしています。また話しやすい環境作りを心がけ、管理者へは24時間体制で連絡して頂ける体制を取っています。	利用者の意見・要望は、日々の会話の中で把握し、内容に応じて家族の協力も得ながら、反映できるよう取り組んでいる。家族の面会や電話連絡の際に利用者の近況を報告し、家族の意見・要望を聴き取るよう傾聴に努めている。写真を多数掲載した「ゆうとぴ庵通信」(3ユニット合同)と担当職員が利用者個々の生活の様子等を手書きした「近況報告」を毎月郵送し、家族の意見・要望が出やすいように取り組んでいる。意見箱を設置し、管理者との相談・連絡体制(24時間メール・電話体制)も整備している。運営推進会議に家族の参加があり、家族が意見等を事業所や外部者に表せる機会も設けている。	

ゆうとぴ庵摂津・千里丘

評価 項目	評価 項目	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見・相談箱を設置、各会議などにおいても職員の意見や提案をヒヤリング聞き反映に努めています。	月1回各フロアフロア会議を行い、利用者・業務等について共有・検討している。月1回コンプライアンス・生活・食事委員会を、3月に1回身体拘束等適正化・高齢者虐待防止・感染症対策委員会を開催し、職員の意見・提案を運営やサービスに反映している。月に1回マネージャー会議を行い、管理者・フロアリーダー・計画作成者が各フロア・各委員会からの情報を共有し、検討している。日々の検討事項については、検討内容・経過・結果を「申し送りノート」で共有し、フロア会議で確認している。管理者・フロアリーダーが適宜個人面談を行い、職員の意見を個別に聴く機会を設けている。事務所に、職員の「意見・相談箱」を設置している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得のバックアップやそれに伴う手当等の設定、有給の取得など職場環境の向上に努めています。ユースエール認定企業や男女いきいきプラス認証もいただいています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要となる研修や、各個人のスキルや経験に合った内部研修や外部研修を活用し、学ぶ機会を設けています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所連絡会の会議や交流会、イベントなどに積極的に参加し、ネットワーク作りに努めています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様の困りごとや要望などに耳を傾け、ご安心いただけるよう関係作りに努めています。		

ゆうとぴ庵摂津・千里丘

評価 項目	評価 部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族のご意向の把握や情報収集により、より安心して頂けるような関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じて、専門機関とも連携を図りながら、その時に必要なサービスの提供ができるよう対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者の状態を把握し、お互いに支えあう関係であることを感じて頂ける様な支援ができるよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者と過ごす時間を大切にして頂けるよう、面会方法等に配慮しています。面会時には食事介助等、ご家族様にも介護にご協力いただける環境を作っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人様がこれまで築いてきた馴染みの人や場所の把握に努め、ご家族了承のもと、関りを継続できるよう支援しています。	家族や(キーパーソンの了解を得て)友人・知人の来訪時は、主に居室で、人数等などに応じて多目的室でゆっくり面会できるよう配慮し、馴染みの人との関係継続を支援している。事業所からは散歩や買い物に、家族との外出では自宅・かかり医・馴染みの店舗・美容室等に出かけ、馴染みの場所との関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりが孤立することなく関わり合い、支えあえる関係作りができるよう、職員も架け橋になりながら支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もこれまでの関係を大切にしながら必要に応じて相談や支援に努めています。		

評価 自己 評価	評価 外部 評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	施設サービス計画書の見直しの際には、利用者の意向を確認し、反映しています。表現の難しい方については、その時々表情や状態を共有しながら把握に努めています。	入居時に把握した利用者・家族の思いや意向は、「フェイスシート(生活歴)」・センター方式の「アセスメントシート(心身の情報)(焦点の情報)」に記録し、3か月毎に更新している。意思の疎通が困難な場合は、利用者の表情や状態からくみ取ったり家族の意見を参考にし、意向の把握に努めている。把握した情報は、フロア会議や「申し送りノート」で共有し、支援や介護計画に反映している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、ご家族様から情報を頂いたり、各機関の関係者等からのサマリーを活用し把握に努めています。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の過ごし方について、フロアで情報共有しながら現状の把握に努めています。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングを毎月実施、サービス計画の見直しの際は必要な関係者からの意見も取り入れながら作成しています。	「入居前情報」「フェイスシート」「アセスメントシート(センター方式の心身の情報・焦点情報)」をもとに初回の「施設サービス計画」を作成している。毎月、「モニタリング表」でモニタリング・評価を行い、必要時は随時、定期的には3か月毎に計画の見直しを行っている。計画の見直しの際は、「モニタリング表」によるモニタリング・評価と「アセスメントシート」による再アセスメントを行い、フロア会議の中で「ケアプラン見直し」を位置づけてカンファレンスを行い記録している。サービスの実施状況は、「介護記録」に記録している。「介護記録」は計画のサービス内容ごとの実施状況を記録する書式になっている	計画見直し時のフロア会議の議事録に、「利用者・家族の意向欄」「関係者(主治医・看護師等)の意見欄」を設け、聴き取り・照会を含め記録することが望まれる。「介護記録」の「特記事項欄」に、利用者の様子等を記録することが望まれる。	

ゆうとぴ庵摂津・千里丘

評価項目	評価部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録用紙に、一日分の情報や支援内容を記録することで、情報を把握しやすくしています。情報は職員間で共有し、支援の見直し等に活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々のケアの実践の結果など記録し職員間で情報を共有し次のケアへの見直しに活かしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	様々な希望やニーズに柔軟に対応できるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様、ご家族様の希望に添った受診ができるよう支援しています。また、かかりつけ医と連携し適切な医療の提供ができるよう努めています。内科、歯科、心療内科の往診を受けることができます。	入居時に利用者・家族の意向を確認し、希望に沿った受診支援を行っている。建物1階のクリニックの内科の定期的な往診と訪問看護が受けられ、24時間連絡体制を整備している。必要時に歯科・心療内科の往診や、訪問看護ステーションからの訪問看護を受けられる体制もある。皮膚科・眼科など他科受診については外部受診とし、家族同行を基本とし、状況に応じて事業所職員が同行している。往診・外部受診状況、相談・結果、訪問看護については、「介護記録」の医療欄に記録し、「申し送りノート」で職員間に周知している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師とは24時間連絡が取れ、必要な看護、指示を頂けます。定期的な訪問は医師の往診に同行の他、訪問看護も週1回あり、情報共有や医師等への報告をして頂いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は医療機関との情報交換に努めています。早期退院に向けて医師やご家族と相談し、本人にとって最善であるよう努めています。		

ゆうとぴ庵摂津・千里丘

評価 項目	評価 項目	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化、終末期についての方針の説明を行っています。その後も状態に合わせて話し合う機会を設け、気持ちに寄り添った支援に取り組んでいます。	重度化・終末期に向けた事業所の方針を、契約時に「重度化した場合の対応に係る指針」・「看取りに関する指針」に沿って説明し、同意を得ている。重度化を迎えた段階で、主治医から家族に説明し、事業所として出来ること・出来ないことを再度説明し、意向を確認している。事業所での看取りの希望があれば、1階クリニックの主治医・訪問看護ステーション・事業所で連携し、家族の意向に沿った支援に取り組んでいる。「フェイスシート」の発症経過シートに家族との話し合い・状態の変化・経過を記録している。年間研修計画に沿って、3月に「終末期における看取りについて・ケアプランの充実について」・「看取り介護指針」の資料回覧研修を予定している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの操作方法や救急救命講習などを学び、緊急時に備えています。緊急時の対応については研修も実施しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常災害・避難訓練について年2回の研修を実施、また地域の防災訓練にも積極的に参加し協力体制も築いています。	年間計画に沿って、年2回、昼間・夜間想定のお知らせ・避難・消火の総合訓練を、利用者も数名参加して実施している。令和6年度は8月は昼間想定で、1月は夜間想定で実施している。訓練後は振り返りを行い、写真付きの実施報告書を作成し、全職員に回覧周知するとともに、エレベーター内にも掲示している。7月に「災害避難・緊急時対応について」の研修と台風想定BCP訓練を行い、1月に地震発生時対応訓練を資料回覧で実施している。BCPの備蓄リストに沿って、水・食料(3日分)を事業所2階に備蓄し、管理者が管理している。法人内施設に共同備蓄も行っている。事業所の総合訓練への地域住民の参加、地域の防災訓練への職員参加、自治会の要救助者リストへの登録、一時的な避難場所としての事業所内一部開放等、地域との協力体制を構築している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮した言葉がけをするよう努めています。職員間の情報共有はできるだけ記録から読み取るようにし、周りに伝わってしまわないよう気を付けています。	年間計画に沿って、「プライバシー保護・個人情報保護」「接遇マナー・ハラスメント防止」「認知症ケア」研修を実施し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応について学ぶ機会を設けている。高齢者虐待防止委員会で不適切な対応がないか検討している。利用者との距離感に配慮し、気になる対応等があれば、随時管理者が個別に注意喚起している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意向を確認しながら、本人が自己決定できるよう支援しています。意思を上手く表現できない方に対しては、混乱等がないよう配慮しながら、希望の把握に努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムを把握し、その人らしい暮らしが実現できるよう支援行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人様の意向も聞きながら季節に合った服装やおしゃれができるよう支援しています。長く愛用されているものについても、ご希望に合わせてお持ち込み頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりのできることや能力を生かしながら楽しみが広がるよう支援しています。毎月のレクリエーションでは、ご利用者のリクエストや季節を感じて頂けるメニューを提供しています。	委託業者から届けられた献立・食材を、各フロアで手作り調理し提供している。業者の献立・食材は、季節感が感じられるよう配慮している。利用者の嚥下状態に応じた食事形態(刻み食・ペースト状・一口サイズ等)に個別に対応している。利用者の好みや力を活かして検品作業(食材読み上げ)・食器洗い等、個々の役割を持って参加できるよう支援している。毎月、食事委員会を開催し、献立内容・利用者の希望を検討し、リクエストメニューとして食事レクリエーションやおやつレクリエーション、行事食・誕生会を企画している。デリバリー(ピザ・ハンバーガー)やテイクアウト(寿司)等、食事の変化を楽しめる機会も設けている。	

ゆうとぴ庵摂津・千里丘

評価 自己	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養状態に注意しながら一人ひとりの習慣に応じた支援をおこなっています。日々の食事や水分摂取量は記録し、状態の把握に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態に合わせた方法で、毎食後に行っています。必要に応じて訪問歯科を利用して頂いています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンや習慣などを把握し、日中はできるだけトイレでの排泄ができるよう支援しています。夜間は睡眠を優先しながらも状況に応じた対応を行っています。	介護日誌の「介護記録」で利用者個々の排泄状況や排泄パターンを把握し、日中は可能な限りトイレでの排泄ができるよう支援している。夜間は安眠・安全に配慮し、利用者個々の状態に応じて、ナースコール対応・トイレ介助・ポータブルトイレの使用・排泄用品交換など柔軟に対応している。介助方法・排泄用品についての課題は毎月のフロア会議で検討し、「申し送りノート」で共有し、現状に即した支援につなげている。誘導時の声かけやドアの開閉に留意する等、プライバシーや羞恥心に配慮した支援について、管理者から周知を図っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量をはじめ食事、お薬、運動など取り入れながら便秘の予防に取り組んでいます。ご希望に応じて、ヨーグルト等の提供も行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的な入浴の頻度等はありませんが、一人ひとりの状況に合わせて柔軟な対応を行っています。また季節の入浴剤を準備するなど、リラックスして頂ける環境づくりに努めています。	介護日誌と「入浴チェック表」で入浴状況を把握している。週2回の入浴を基本とし、一般浴槽の個浴で、その日の体調・気分に応じて日時の変更にも柔軟に対応している。状態に応じて2人介助・シャワー浴・足浴・清拭で対応し、心身に負担をかけないよう配慮している。希望に応じて同性介助で対応し、皮膚疾患や好みに合わせて個別のシャンプーやソープを使用している。希望に応じて季節の入浴剤を準備する等、入浴を楽しめるよう工夫している。	

ゆうとぴ庵摂津・千里丘

評価 自己	評価 外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援	状況に合わせて日中も休息が取れるよう支援しています。		
		一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している			
47		○服薬支援	使用目的や副作用などを理解し服薬支援に努めています。薬についての相談等は医師や看護師だけでなく薬剤師とも連携を行っています。		
		一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や嗜好などに合わせながら日々活動を提供しています。レクリエーションでも作業内容を工夫し、達成感や満足感を感じて頂けるよう配慮しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	普段のお買い物で近くのお店に出かけたり、行事として初詣やお花見等、季節ごとの外出を行っています。またご家族様にも協力して頂き、希望に添った支援ができるよう努めています。	日常的に散歩やスーパー・ドラッグストアへ買い物に出かけ、気候に応じて午前や午後に玄関先で外気浴を行う等、戸外に出る機会作りに努めている。食事レクリエーションの買い出しにも出かけている。行事として初詣・花見・紅葉狩りに出かけたり、地域行事(夏祭り・運動会・防災訓練・介護の日のイベント等)にも積極的に参加する等、外出支援に取り組んでいる。家族と協力しながら、希望に応じて家族との外出・外食・外泊に出かけられるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者やご家族の希望や力に応じて本人様がお金を所持、利用できるよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様からの電話を取り次いだり、ご希望に応じて支援しています。知人等と年賀状やお手紙のやり取りをされている方もいます。		

ゆうとぴ庵摂津・千里丘

評価 自己	評価 外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	光や音、匂い等に配慮し居心地のよい空間作りを行っています。ご利用者に馴染みのあるものを配置したり、壁には皆で作った作品を飾って楽しんで頂いています。	各フロアの共用空間は自然光が入り明るく、カーテンの調光・テレビの音量調節等により、快適性に配慮している。長い廊下の壁面には利用者と制作した季節の作品が飾られ、リビングには季節の花を飾るなど、季節感が感じられる。テーブル・ソファ・テレビを配置し、一人席・横並び・背中合わせなどテーブル配置や配席を工夫し、トラブルなく、思い思いの場所で居心地良く過ごせるよう配慮している。キッチンから調理の匂いや音を感じたり、食器洗いや片付け・洗濯たたみ等に参加し、利用者が生活感を感ぜられるよう支援をしている。食前のラジオ体操・口腔体操を日課とし、個別に長い廊下を歩く等、筋力低下予防に努めている。生活委員会が中心となり行事や食事レクリエーションを企画し、季節を感じ楽しめる機会づくりに取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ローカにはソファを設置するなど、お好きな場所で寛いでいただける工夫をしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	これまで使い慣れた物を利用いただきながら安心・安全に過ごして頂ける空間作りを支援しています。	居室には、クローゼット・テーブルセット・ベッド・ナースコール等が設置されている。引出し筆筒・テレビ・寝具・ホットカーペットなど使い慣れたものや、写真・仏壇などの馴染みのあるものが持ち込まれ、居心地良く過ごせるよう配慮している。利用者の生活パターン・動線に合わせて家具を配置し、安心・安全な環境に配慮している。シーツ交換や居室掃除は利用者も一緒に参加できるよう支援している。居室担当職員を設け、家族と連携しながら、適宜衣替えや環境整備を支援している。	

ゆうとぴ庵摂津・千里丘

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの能力を活かしながら、安全に生活できる環境作りに取り組んでいます。		